

宮本三郎の素描

アトリエでの40年間の軌跡

4月2日(土) — 7月24日(日)

このたび宮本三郎記念美術館では、宮本三郎の生誕100年を記念し、「宮本三郎の素描 アトリエでの40年間の軌跡」展を開催いたします。

生涯一貫して独自のリアリズムを追求し、華麗なる色彩の世界を創出した画家・宮本三郎は、1935(昭和10)年、現在当館が建つ世田谷区奥沢の地に、アトリエ兼住居を構えました。そして、1974(昭和49)年に逝去するまでの約40年間、この地において創作活動を続けました。

当館が所蔵する宮本三郎の素描作品は、総数3000点を超える膨大なものであり、それらは、奥

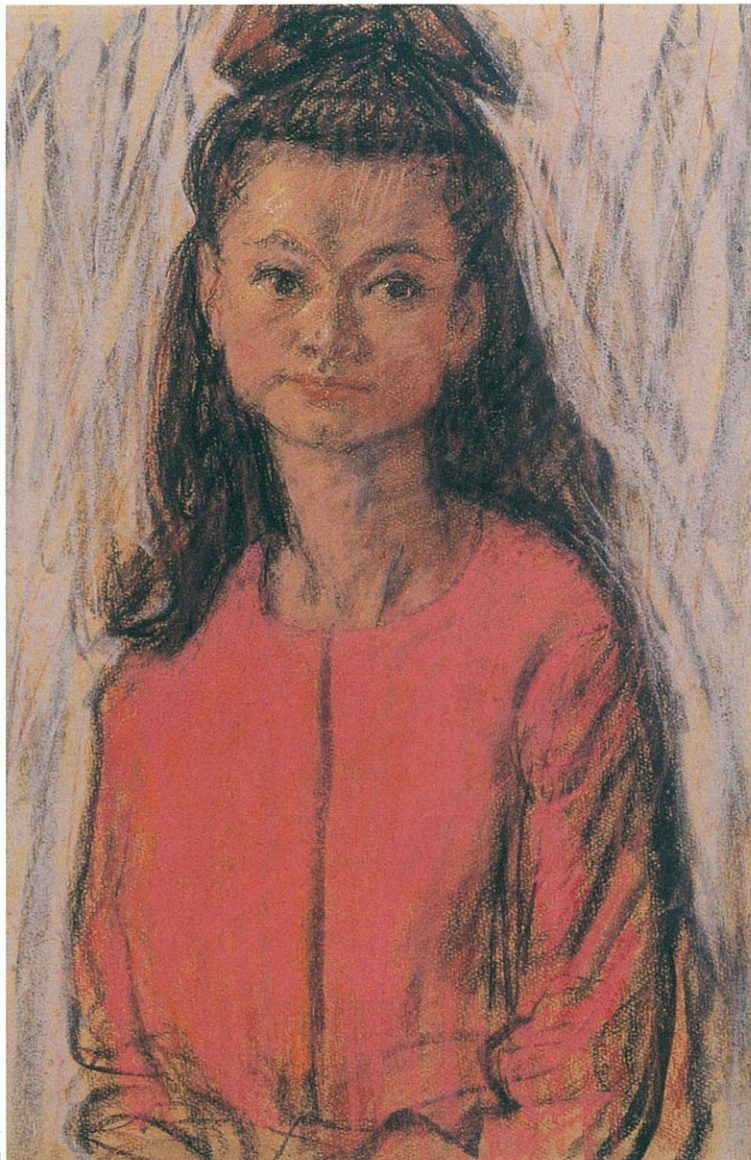
沢のアトリエにおける、画家としての40年間の日々を物語るものです。大量に残されたそれらの素描からは、物象の本質を深く見つめ、美を見出し、そこから得た感動をかたちにかえていく、宮本三郎の試行の変遷を読み取ることができましょう。

本展では、小説・雑誌等の挿絵を含む、初期から晩年に至るまでの宮本三郎の素描作品を、このたび初公開となる作品を中心にご紹介し、宮本の卓越した素描家としての側面をご紹介します。

宮本三郎にとって、表現手段としての素描と油彩は、常に不可分の関係にありました。物象を深

く観察する眼差しと、そこに内在する美を感受する精神、そして比類なき素描力こそが、宮本三郎の独特な写実表現の源泉であったことを感じ取っていただければと思います。そうした意味で本展では、同じモチーフによる素描作品と油彩作品を併せて展示し、宮本三郎が独自の表現世界を開いていったプロセスを垣間見たいと思います。

宮本三郎が力強く流麗な描線で構築した豊かな造形と、その旺盛な探究心によって創出した、実り多き画業をお楽しみください。



2



3



4

- 1 《歌手》1964年頃
2 《乳牛》1958年頃
3 《乳牛》1958年
4 《化粧室の裸婦》1965年頃